

私は、今学期の教育実習授業を通して、自分の変化を感じることができた。

私が感じた自分の一番の変化は、教えることに抵抗がなくなったことである。私はもともと人に教えることが苦手で、伝わりやすいように上手く説明できなかつたり、相手が理解してくれるか不安で、教えることを避けたりするする傾向がある。実際に初めて留学生に日本語を教えたとき、自分のした説明が留学生に理解されているのか、留学生の反応が鈍かったときは、「今の説明は失敗だったかな」と不安になることが多く、心に余裕が持てなかった。しかし、実習授業の準備と三回の実習を経験し、横溝先生からのアドバイスも聞きながら、教えるにあたって大切なことを少しずつ学ぶことができ、段々と意識するようになった。

その意識するようになったことは、主に二つある。一つ目は、「説明するときは教材や黒板を使って、例を示しながら教えること」である。例を示すことで話すことは簡潔に、視覚情報を与えることでより理解してもらえるようになった。また、教師が演技をしてやって見せるのもわかりやすく、上手く伝えることができた。二つ目は、「学習者に目を配ること」である。学習者がメモしていたら書き終えるまで待ったり、一人一人言わせてみて理解しているか確認したりするようにした。そうすることで学習者も心に余裕をもって授業を受けられるし、つまずくことなく授業を進められると思った。また、私は学習者の目を見るように努力した。教えるときに黒板ばかり向いていたり、教案ばかり見ていたりしては、気持ちが学習者に向いていないように感じ、伝わりにくい。教えるには、そのような気持ちの姿勢も大事だと感じた。これらを実践してみて、教えることに抵抗を前ほど感じなくなった。

ここで三回の授業を振り返ってみようと思う。

一回目はロールプレイを担当した。留学生が何と答えるか予測できないため、フィードバックをするとき少し焦っていた。ロールプレイで留学生が『住む』と『泊まる』の区別ができていなかったため、説明したところ理解してもらえたのは良かった。しかし、緊張していたのか間が多く、あまりスムーズに進められていなかったように感じた。

二回目は、音声練習を担当した。良かったのは音声のCDをスムーズに流すことができたことと、留学生にやってもらう練習を説明するとき自分たちでやってみ理解しやすいように例を示せたこと、間違いと正解を提示して違いを示したことである。改善したい点は、アクセントがわからなくなり自信がなくなったことと、留学生からの質問に答えられず時間を費やしてしまい、時間が足りなくなったことである。事前の準備は入念にして、時間のことも考慮しながらすることが大切だと気付いた。

三回目は、ロールプレイと音声練習の両方を担当した。良かった点は、前回の授業で答えられなかった質問を取り入れて説明したことである。改善が必要な点は、間違いに気づけなかったことである。ロールプレイは留学生同士でしたため、一人が言ったことをもう一人がつられて言うことがあったが、それに気づかず直すことができなかった。気づく力をもっと身に付けようと思った。

実習準備から実際に授業を行うまでに、難しいこともたくさんあった。一つは教材と自分の言葉を上手く組み合わせ、留学生に伝わりやすくすることである。音声練習の問題の説明のときに、言葉だけでは伝わりにくいと思い教材を作ったが、それを使って説明しようとしたときに、どうしても説明が長くなってしまった。同じグループのみんななどどのような説明がわかりやすいか、考えることが多かった。二つ目に学習者に予想していなかったことを聞かれたときである。その内容が自分たちが理解できているものであれば、説明して理解してもらうことができたが、私たちが日本語を話す上で考えたことのないことを質問されたとき、正解がわからなくてどうすればいいのかもわからず、結局次回に持ち越した。このようなときどのように対応すればいいのか、もっと考えなければならぬと思った。

その反対に嬉しかったこともある。まず、説明したとき留学生が、「ああ〜！」と声を出して頷きながら理解してくれたことである。先で述べたように、説明はみんなで案を出しながら考えていたので嬉しかった。また、用意してきていた文法やフレーズなどの教えたことを、メモしてくれていた時も、とてもうれしかった。自分たちなりに教えたことを提案し教材を作ったりしていたので、留学生の役に立っているようで嬉しく感じた。そして教材を作るときは、「この説明にはこんな教材がわかりやすいだろう」と考えるようになったのは、進歩したところだと感じる。

ここまで実習授業を振り返り変容を記してきた。そして後期の実習に向けて改善したい点のはっきり見えてきた。DVDを見ると「声が一定のトーンである」ことが分かったので、抑揚をつけて学習者に語りかけるように話すこと、間違いや一人一人の間違いの癖に気づけるようになることを心がけたい。これは、日頃の生活の中で意識できることであると思う。後期の実習は人数も多く、教室も広いので声の出し方に注意して、学習者一人一人に目配りができるようになりたい。また、いろいろな人の授業を見てアドバイスも貰った。他の人の授業の良いところを取り入れアドバイスも受け入れて、教師も学習者も楽しめる授業にしたい。